

第55回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年12月1日（水） 14：00－16：00
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、後藤委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、高見参事官、松井参事官、守山参事官、佐藤参事官
 - (3) 関係省庁等
外務省 国際協力局政策課 中村課長、総合外交政策局宇宙室 井澤首席事務官
経団連 下村宇宙開発利用推進委員長、根本常務理事、続橋産業技術本部長
三菱電機 電子システム事業本部 小山役員技監
4. 議事要旨
 - (1) 宇宙利用に係る産業界の取組について
経団連より説明を行った。委員からは以下の様な意見、質問があった。
(以下、○意見・質問等、●回答)
 - 宇宙産業ビジョンは政府がとりまとめる報告書であるのに対し、産業界としての決意を示すことが重要である。
 - 宇宙データのプラットフォーム整備は重要であり、官民一体に取り組むべきものであるが、実現に当たっての一番の課題は何か。
 - 三次元地図基盤の整備に当たっては、分野を超えた連携が重要であり、これは宇宙データ全体を通じた課題である。
 - 宇宙分野は民需が小さい為、民生利用の拡大をぜひ取り組んでほしい。
 - ビッグデータは宇宙に限るものではなく、異分野との連携が重要である。

(2) 各部会・小委員会からの報告事項

①「宇宙システムの抗たん性強化に向けた基本的考え方」について

11月18日の第18回宇宙安全保障部会にて取り上げられた内容について事務局より報告を行った。委員からは以下の様な意見があった。

○検討に当たっては、具体的にどういうタイムスパンで考えるかを整理する必要がある。例えば太陽フレアは、地震と同じように、日常的に起きている小規模な障害から大規模な障害を及ぼすくまれな現象まであり、何を況慮すべきかを考える上で、そのタイムスパンが重要である。

○宇宙システムの脆弱性評価については、その結果の取り扱い方をどうするかが大事である。

②「宇宙産業振興小委の議論を受けた当面の取組方針」について

11月25日の第7回宇宙産業振興小委員会にて取り上げられた内容について事務局より報告を行った。委員からは以下の様な意見、質問があった。

(以下、○意見・質問等、●回答)

○アジアへの展開について、具体的にどのような国を想定しているのか。

●タイやインドネシアなどASEAN諸国を想定している。

○ベンチャーや異分野からの参入事例は参考になるので、取りまとめに際しては是非記載して頂きたい。

③「宇宙分野に係る開発途上国的能力構築支援」について

10月25日の第25回宇宙産業・科学技術基盤部会にて取り上げられた内容について、事務局及び外務省から説明を行った。委員からは以下の様な意見、質問があった。

(以下、○意見・質問等、●回答)

○開発途上国におけるニーズを良く聞いた上で、各省の横の連携を良くして、相手国と双方向で進めて頂きたい。

○機械技術の不拡散や軍事転用の防止はどう担保するのか。

●外為法に基づく輸出管理や、相手国との協議時に確認した上で必要があれば国際約束を結ぶなどが考えられる。

（3）宇宙基本計画工程表の改訂案について

事務局より説明を行った。政府内で調整中の事項についての取り扱いは委員長に一任した上で、委員会として了承した。委員からは以下の様な意見があった。

- 宇宙2法の成立など大きな進展があったことを評価したい。次年度からはこれを具体化していくことが大事である。
- 準天頂システムの7機体制について、抗たん性の強化についても一体的に進めてほしい。

以上